

梶金地区
ビフォーアフター

(神沢川・下之沢)
2004～5年・2012年



震災翌年夏の神沢川。手前が下流。
向かって左側が小千谷市、右側が長岡市山古志。
奥に梶金集落が見える。
兩岸ともに地すべりが多く、傷跡がまだ生々しい。
川に沿って国道291号線が通る。
四角部分を拡大してみる。



元の国道は土砂をかぶったり崩れ落ちたりして被災が多く、ブルーシートが並ぶ。
川の中は土砂が厚く溜まっている。
重機がある辺りにセル型の砂防堰堤を建設しようとしている。
旧国道と川の間には工事用道路が通されている。
さまざまな復旧事業が進められた時期には、工事用道路が国道に代わって幹線道路となった。



H24.8.22 神沢川

セル型の神沢川砂防堰堤が作られ、ダム湖になった。
その上流にセル型の下之沢床固工が見える。



上がビフォー、下がアフター。新しい景観となった。
上流に梶金集落が見える

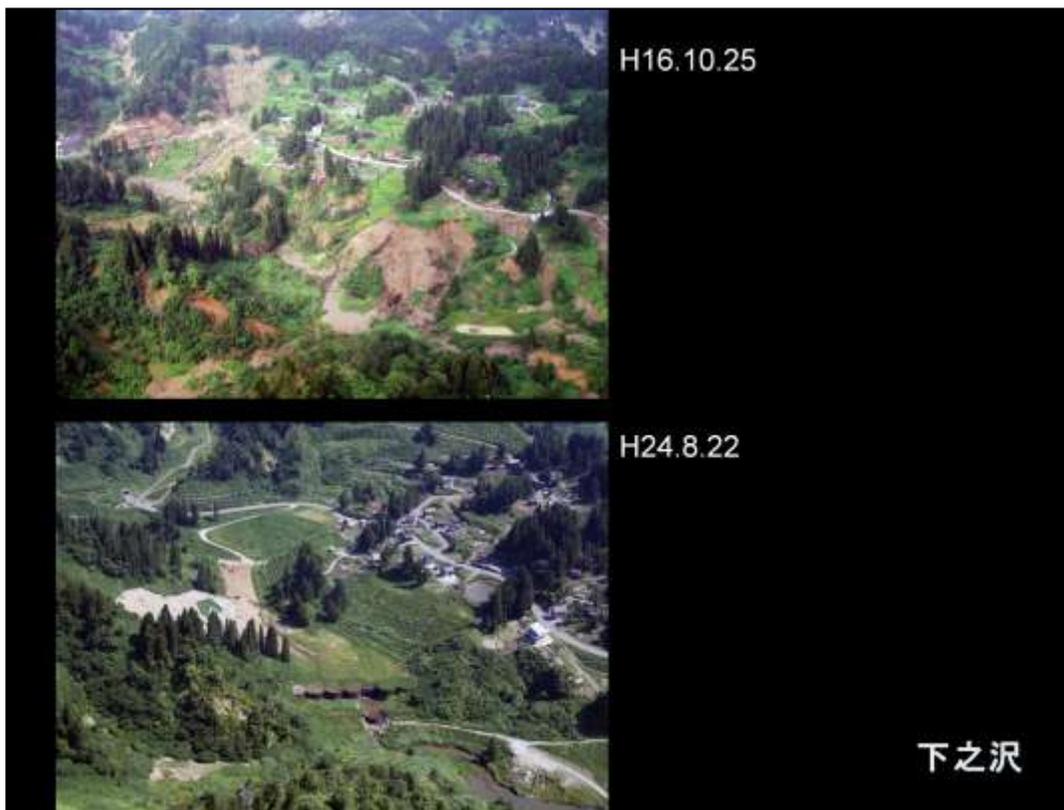


被災直後はこのような状況。
梶金集落は大きな地すべりに乗っている。



H24.8.22 下之沢

現在はこのように整備されて多くの家が新しく建て替えられた。



梶金付近のビフォーアフター。
緑の斜面は地すべり対策の押え盛土。
セル型の床固工が上流の平坦部も地すべりを押さえている。
東竹沢河道閉塞部の土砂も使われた。
比較すると、生活空間の足場を固める砂防事業の効果が
一目瞭然。